

# 本 会 報

## 学会だより

### ◇ 常任幹事会記録

開催日：平成 17 年 7 月 30 日

場所：東京大学農学部

出席者：会長 喜多村啓介，副会長 谷坂隆俊，吉田薫，金澤章，大澤良，高野哲夫，堤伸浩，高畑義人，富田因則，佐藤裕，川上直人，熊丸敏博

各常任幹事からの経過報告後，会計関連事項，地域活動，筑波大会での報道発表，幹事会・総会ならびに幹事選挙の運営方法，遺伝子組換え作物の栽培規制の状況等について確認ならびに討議を行った。

### ◇ 幹事会

開催日：平成 17 年 8 月 19 日

会場：筑波大学総合研究棟

出席者：会長 喜多村啓介，副会長 谷坂隆俊，吉田薫，金澤章，渡邊和男，大澤良，村井耕二，高野哲夫，堤伸浩，高畑義人，門脇光一，佐藤裕，勝田真澄，森川利信，奥本裕，川上直人，富田因則，熊丸敏博，阿部利徳，石川隆二，西尾剛，田部井豊，原田久也，平野博之，藤村達人，松浦誠司，丸橋亘，三位正洋，奥野員敏，北野英己，神山康夫，上島脩志，山田利昭，吉田元信，武田真，村田達郎，藪谷勤

#### 1. 各常任幹事報告

(1) 幹事の交代，会員数（2005 年 8 月の時点で 2483 名），遺伝子組換え作物の栽培規制に関する意見書提出，学会に対する賞の候補者推薦依頼への対応について報告がなされた。

(2) 2004 年秋季大会（三重大学）での参加者は 644 名，一般講演総数 327 題（内取り消し 3 題）であること，春季・秋季合同大会の一般講演総数は 396 題（内取り消し 2 題）であること，次大会（2006 年春季大会）は東京農工大学（委員長：平田豊氏）において 3 月 28 日から 3 月 30 日の日程で行われる予定であることが報告された。なお，春季・秋季合同大会の参加者は後の集計で 779 名であった。

(3) 科学研究費の採択状況，および，本学会が申請したテーマ「遺伝子組換え作物研究の現状と課題」により行われる平成 17 年度日本農学会シンポジウムの講演題目等が報告された。また，公開シンポジウムの課題について開催校とともに常任幹事会で検討を加えていくことを確認した。

(4) 雑誌発行，編集，論文の審査および投稿，on line journal のアクセス，総説の編集に関する状況報告がなされた。また，論文数は特に英文誌で顕著に増加する傾向にあ

ること，編集委員の増員（春季幹事会で承認済み），インパクトファクターの推移の報告がなされた。

(5) 日本語版と英語版の現在のホームページ掲載されている各項目の説明がなされた。また，公募情報等の検討状況の報告，地域活動情報の積極的投稿の呼びかけがなされた。

#### 2. 議事

(1) 平成 17 年度日本育種学会賞の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件を選定した。

・山岸博（京都産業大学工学部）：ダイコン属植物の系統分化に関する遺伝・育種学的研究

・茶品種「さえみどり」，「おくみどり」育種グループ（代表者：武田善行）：緑茶用の早生品種「さえみどり」および晩生品種「おくみどり」の育成

(2) 平成 17 年度日本育種学会奨励賞の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件を選定した。

・高崎剛志（神戸大学農学部）：遺伝子導入によるアブラナ科自家不和合性の制御に関する研究

・久保友彦（北海道大学大学院農学研究科）：テンサイにおけるミトコンドリア DNA の全遺伝情報解読と雄性不稔性の機構解析

(3) 平成 18 年度日本農学賞候補者の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 1 件を選定した。

・岩永勝（国際トウモロコシ・コムギ改良センター）：国際農業における植物遺伝資源の利用促進，特に持続的農業支援のための遺伝育種研究への貢献

(4) 2006 年秋季大会（第 110 回講演会・第 48 回シンポジウム）について

同大会が愛媛大で開催されることが諮られ，承認された。

(5) 平成 16 年度決算報告ならびに平成 17 年度予算案について

平成 16 年度決算報告ならびに平成 17 年度予算案の提案がなされ，承認された。参考として，総収入の推移と雑誌刊行費等の増加の傾向について報告があり，会計に関連した学会運営全般について意見交換を行った。

(6) 地域活動

地域活動活性化のための各ワーキンググループの活動内容，地域活動の予算化により見込まれる活動内容と活動費支給までの手続き，また，各地域の活動計画と予算案が紹介された。活動費に関して，1) 余剰が生じた場合は返却すること，2) 活動報告を学会誌上で行うこと，3) 有効に活動費が使用されているか査定をすること，4) 活動内容によっては支給額の上限は検討の余地があること，が説明され，本活動全般に関して意

見交換を行った。

(7) 遺伝子組み換え作物の栽培規制の問題について

北陸における遺伝子組換えイネの試験栽培の中止を求める仮処分申請が却下されたことの報告、ならびに、北海道における遺伝子組換え作物の栽培規制条例の細目の制定に向けた検討状況について報告があった。後者に関しては、現段階では農林水産省による独立行政法人向けの試験栽培の指針にさらに制約を課した内容となっているが、この制約に関する科学的根拠を見出すことはできない。遺伝子組換え植物の試験栽培に関して、それを取り巻く社会状況を含めて、情報ならびに意見の交換を行った。遺伝子組換え作物に関する一般社会の認識と研究者の理解には隔たりがある状況は続いており、学会としての意思表示が必要となるとの考えを確認した。

(8) その他

・学会賞の件数について

学会賞の受賞件数が学術的業績と技術的業績が各1件に限られている状況を見直す案について意見交換を行った。常任幹事会で検討を続けることとした。

3. 関連報告

(1) 植物育種学辞典委員会

近日中に発行される植物育種学辞典の概要について報告があった

(2) その他

・日本学術会議育種学研究連絡委員会からの報告

今年度の活動状況の報告とシンポジウムの案内があった。

・日本学術会議の新しい体制について

設置が予定される分野別委員会を含む学術会議の新体制の概略が紹介された。

・JABEEについて

JABEE 認定の国際的同等性が承認されたこと、研究会への学会員の参加状況等について報告された。

・シンポジウム委員会より

愛媛大会におけるシンポジウムにおいて、地域関連のテーマを1課題含むことを予定していること、ならびに、3-4 課題を公募する予定であることが報告された。

◇ 総会

開催日：平成 17 年 8 月 20 日

会場：筑波大学第 2 学群棟

1. 各常任幹事報告

2. 第 2 回（平成 16 年度）日本育種学会論文賞の発表

〈日本育種学会論文賞 第 3 号〉

論文名：Molecular characterization of a 313-kb genomic region containing the self-incompatibility locus of *Ipomoea trifida*, a diploid relative of sweet potato（サツ

マイモ野生 2 倍体種における自家不和合性遺伝子座のゲノム領域の分子的解析）

著者：Tomita RN, Suzuki G, Yoshida K, Yano Y, Tsuchiya T, Kakeda K, Mukai Y, Kowyama Y（Tomita RN, 鈴木剛, 吉田和生, 矢野行人, 土屋亨, 掛田克行, 向井康比己, 神山康夫）

掲載誌：Breeding Science 54 (2) :165-175 (2004)

〈日本育種学会論文賞 第 4 号〉

論文名：Spontaneous brassinolide-insensitive barley mutants 'uzu' adapted to East Asia（東アジアに適応したオオムギのブラシノライド非感受性自然突然変異“渦”）

著者：Saisho D, Tanno K, Chono M, Honda I, Kitano H, Takeda K（最相大輔, 丹野研一, 蝶野真喜子, 本多一郎, 北野英己, 武田和義）

掲載誌：Breeding Science 54 (4) :409-416 (2004)

3. 議事

(1) 平成 16 年度決算報告・会計監査報告（下記参照）

(2) 平成 17 年度予算案の審議（下記参照）

いずれも承認された。

(3) 次期開催校（東京農工大）の紹介

平田豊大会委員長より次大会の開催について紹介がなされた。

4. 関連報告

(1) 植物育種学辞典委員会

鶴飼保雄 同委員会委員長より、このたび発行となる日本育種学会編による植物育種学辞典について紹介がなされた。

◇ 平成 16 年度決算および 17 年度予算

収入の部	平成 16 年度決算	平成 17 年度予算
1. 前年度繰越金	2,055,930	2,710,798
2. 会員会費	18,755,370	17,277,000
3. 賛助会員会費	1,023,420	1,060,000
4. 助成金	2,100,000	2,000,000
5. 別冊等頒布	3,566,800	2,515,000
6. 雑収入	3,814,917	2,816,570
7. 寄付金	700,000	0
8. 学会運営事務費繰戻	2,203,224	
9. 運営基金より繰入	0	2,400,000
合 計	34,219,661	30,779,368

支出の部	平成 16 年度決算	平成 17 年度予算
I. 事業費	20,991,767	19,070,000
1. 雑誌刊行費	14,512,670	14,060,000
2. 別冊刊行費	3,185,017	1,660,000
3. 大会費	1,200,000	1,100,000
4. シンポジウム費	400,000	150,000
5. 学会賞費	673,480	700,000

6. オンライン費	1,020,600	840,000
7. 名簿作成費	0	560,000
II. 運営費	10,312,225	11,556,500
1. 学会分担金	395,572	304,000
2. 学術会議関連費	20,000	350,000
3. 事務担当者手当	380,000	380,000
4. 事務費	3,800,000	4,050,000
1) 庶務	1,500,000	1,400,000
2) 編集	1,700,000	2,150,000
英文誌	1,150,000	1,400,000
和文誌	550,000	750,000
3) 集会	400,000	300,000
4) 会計	200,000	200,000
5. 事務委託費	4,620,000	4,672,500
6. 通信費・送料	842,628	700,000
7. 付属印刷物	229,215	260,000
8. 地域活動費	0	300,000
9. 雑支出	24,810	40,000
10. 寄付金	0	500,000
III. 予備費	204,871	152,868
IV. 次年度へ繰入	2,710,798	
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	34,219,661	30,779,368
基 金	平成 16 年度決算	平成 17 年度予定
運営基金	20,900,000	18,500,000
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
50 周年記念基金	758,735	758,735
50 周年記念事業特別会計	-	-

### ◇ 学会賞授賞式・受賞講演

会場・開催日：同上

平成 16 年度 日本育種学会賞

・佐野芳雄氏（北海道大学大学院農学研究科）：栽培イネおよび近縁野生種における生殖隔離と適応的分化の研究

・宮崎県水稲育種グループ（代表者：小八重雅裕氏）：九州における良食味品種「ヒノヒカリ」, 「ほほえみ」, 「かりの舞」, 「あきげしき」の育成

平成 16 年度 日本育種学会奨励賞

・片山健二氏（農業・生物系特定産業技術研究機構九州沖縄農業研究センター）：サツマイモにおけるデンプン特性の変異に関する育種学的研究

・田中淳一氏（独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所）：DNA マーカーのチャ育種への利用に関する研究

### 集会の案内

#### ◇ 第 16 回 SHITA シンポジウム「植物工場が拓く未来の植物生産」

開催日時：2006 年 1 月 18 日（水）9 時 40 分～16 時 40 分（講演会），17 時 00 分～19 時 00 分（懇親会）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都千代田区神田駿河台 3-11-5）

主催：日本植物工場学会（SHITA）

Web ページ：<<http://shita.jp/sympo/>> に、案内および参加申込書式があります。

### 研究助成公募の案内

#### ◇（財）ソルト・サイエンス研究財団 平成 18 年度研究助成の公募

1. 助成の対象〈一般公募研究〉単年度（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）・農学・生物学 塩・海水に関わる生物の研究
2. 募集件数および研究助成金額〈一般公募研究〉  
・農学・生物学 A 区分 2 件程度，B 区分 4 件程度
3. 応募の資格：日本国内の大学および公的機関等で研究に携わる者（学生・研究生等は除く）若手研究者の積極的な応募を期待します。
4. 応募の方法：当財団の研究助成募集要領による。財団のホームページから平成 18 年度研究助成募集要領（Microsoft Word）をダウンロードし、募集要領に基づいて所定の書式に記入のうえ応募期間内に提出して下さい。
5. 応募の期間：平成 17 年 11 月 1 日～平成 17 年 12 月 20 日まで（申請書類必着）
6. 提出先：〒 106-0032 東京都港区六本木 7-15-14 塩業ビル 3 階 財団法人ソルト・サイエンス研究財団 Tel：03-3497-5711 FAX：03-3497-5712 ホームページ <http://www.saltscience.or.jp> E-mail: saltscience@mve.biglobe.ne.jp

#### ◇（財）タカノ農芸化学研究助成財団 平成 18 年度研究助成対象者募集要領

農学，特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成。

1. 研究課題：（1）穀類並びに豆類の栽培・育種に関する研究，（2）穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究，（3）穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究，（4）納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究
2. 研究助成対象者：（1）大学及び短大の研究者（大学院生も含む），（2）国立試験研究機関の研究者，（3）公立試験研究機関の研究者，（4）その他本財団が適当と認めた研究者
3. 助成金額：一般研究者 1 件 100 万円を 7 件程度，若手研究者 1 件 50 万円を 6 件程度（昭和 41 年 4 月 1 日以降に生まれた者）
4. 交付時期：平成 18 年 5 月予定
5. 申請手続き方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し，平成 17 年 3 月 20 日（必着）までに送付。

申請書用紙は、郵送用切手（140円）同封のうえ、下記宛に請求。

6. 申請書請求先及び送付先：〒311-3411 茨城県東茨城郡小川町野田字大沼頭1542（財）タカノ農芸化学研究助成財団 タカノフーズ（株）内 財団事務局 TEL 0299-58-4363 FAX 0299-58-3847 ※平成16年度研究テーマ検索ホームページ <http://www.jfc.or.jp/search/guide.html>
7. 同一研究課題で、他の団体等へ応募され、かつ、本年度重複助成となられた場合には、助成をできない場合がありますのでご注意ください。

## 談話会だより

### ◇ 岩手育種談話会

第20回岩手育種談話会

開催日：2005年9月22日

会場：岩手大学農学部

演者：矢野博（近畿中国四国農業研究センター）

演題：「くらしの中のバイオテクノロジー～バイオテクノロジーで安心安全～」

## 日本育種学会会員異動(2005.7.21～2005.10.20)

- ◇ 普通会员入会：鈴木孝子（北海道）、佐藤正志（秋田）、土井芳憲、森一彰（埼玉）、坪倉康隆（千葉）、荻原均、豊田雅司（東京）、山川博幹（新潟）、金義衛、小林大樹（石川）、森藤暁（愛知）、安井康夫（京都）
- ◇ 学生会員入会：馮瑩瑩（秋田）、野中聡子（茨城）、船越裕子（長野）、佐伯明日香（京都）、濱田聡（奈良）
- ◇ 外国会員入会：SEO Yong Weon, 李善鏞, 林在初（大韓民国）

## 住所変更等

◇ 名誉会員：日向康吉（宮城）

◇ 普通会员：品田博史（北海道）、手塚正教（宮城）、北川悦子（秋田）、古賀重成、前田哲、溝淵律子（茨城）、荒巻功、角谷直人（東京）、佐々木多喜雄、長谷川久和、若狭暁（神奈川）、相井城太郎（新潟）、濱田達朗（石川）、寺島和寿（鳥取）、川村泰史（徳島）、小村国則（長崎）